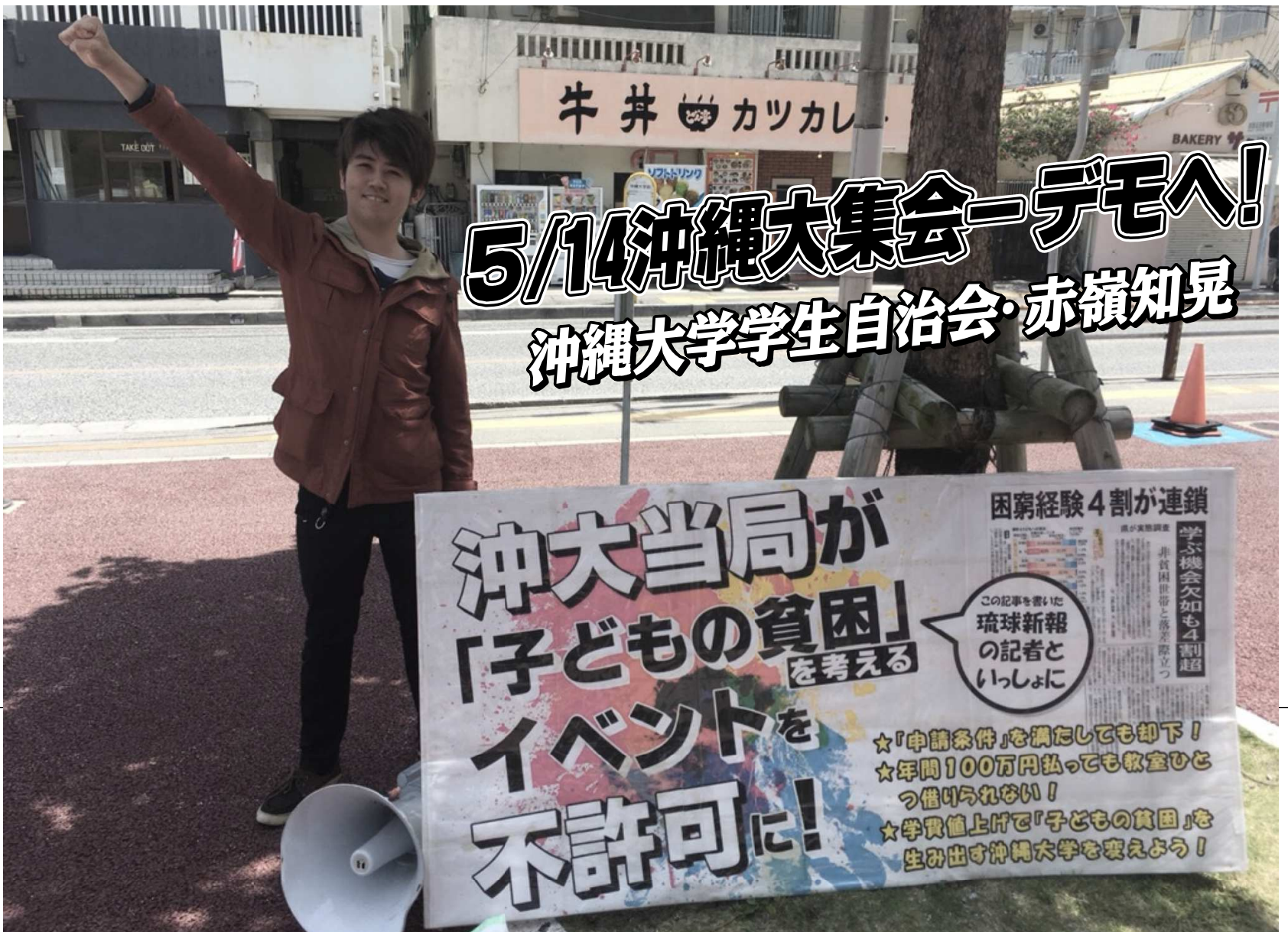


# 6・3高松大集会へ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2018年5月12日  
No.508

Tel 03-3651-4861  
mail\_cn001@zengakuren.jp  
http://www.zengakuren.jp/



沖縄大学学生自治会は、5・14沖大キャンパス集会と17日からの自治会執行部選挙を、「基地の島」「貧困の島」の現実をうち破る闘いとしてうち抜きます! ぜひ集会に集まってください!

## アンケートを無視して 金儲けに走る沖大当局

沖大自治会はこの1年間、「学生の貧困を変えよう」を最大のスローガンにして闘ってきました。1月にはアンケートを集めて、「学費を安くしてほしい」「駐車場をなくさないでほしい」「部活紹介のビラ配りを禁止しないでほしい」など、40人もの沖大生の切実な思いを沖大当局に叩きつけてきました。沖大当局は2014年の沖大自治会再建以来、ずっと申し入れを拒否し続けてきましたが、沖大生の思いに圧倒されて、申入書を受け

取らざるをえませんでした!

しかし沖大当局は、アンケートに書かれた学生の意見に全く答えないどころか、むしろ「もっと利益を上げる」と言って構内の駐車場を潰し、年間114万円の新学部(他は96万円。それでも高い!)の校舎を建てています。学生の生活を食べ物にして金儲けをする沖大当局を、絶対に許すことはできません!

## 「子どもの貧困」講演会が大成功!

今年の4月24日には、私が「学生の貧困を考える会」として、琉球新報記者で元「子どもの貧困」取材班の黒田華さんを招いて講演会を開きました。

黒田さんの講演で特に印象に残ったのが、子どもの貧困率が全国平均の2倍以上の29.9%となっている沖縄の貧困の現実について、「原因をさかのぼると沖縄戦



に行き着く」ということです。沖縄戦ですべてを破壊され、米軍統治で本土と分断されて社会保障もままならない中、貧困の連鎖が続いてきました。そして全国的に労働環境が悪化する中で、どれだけ真面目に働いても生きていけない現実があります。

黒田さんは「取材を通じて本当に伝えたかったことは、貧困は自己責任じゃないということです」「私たちには働く者としての権利があります。社会の構造に対して、もっと文句を言っているんです」と締めくくりました。まさにその通りだ！ だからこそ、労働組合や学生自治会を通じて、職場・キャンパスから団結して声を上げることが求められています。

## 講演会を却下した沖大当局を許さない！

この講演会を開くにあたって、4年前の沖大キャンパス集会では学生に「帰れコール」をやらせて弾圧に走った教授が、沖大自治会の粘り強い闘いに獲得され、教室使用申請の責任者に決起してくれました！

しかし、こうして申請条件をすべて満たし、沖大当局は最初は申請書を受け取ったものの、何と次の日に「赤嶺が過去に訓告処分を受けている」と言いがかりをつけて申請を却下しました。過去の私の処分歴(それ自身も不当!)を口実に教室の使用申請を却下するなど、

沖大当局が大好きな学則にすら書かれていない、超法規的行為です。自ら作ったルールを破ってでも、学生自身が考えて行動することを押しつぶす。

## こんな沖大当局に未来はない！

黒田さん講演会は、教室使用申請が却下されて学外会場になったこともあって、沖大生の参加はゼロでした。「参加したい」と言ってくれる学生ほど、バイトが忙しくて参加できないという状況がのしかかっています。この間沖大で集めたアンケートでは、アルバイトをやっている学生の出勤回数が平均週4回(ほとんど労働者だ!)。そして、バイトの目的のほとんどが学費や生活費を稼ぐため。これが沖縄の学生の現実です。

しかしそんな中で、ある学生が講演会の録音を聴いて感想を書いてくれたり、報告を聞きたいという学生や、沖大自治会が辺野古新基地建設を訴えてきていることに感動した学生とつながるなど、団結が広がっています。17日からの自治会執行部選挙を新たな出発点に、沖大生が団結して闘う組織として、本当の意味で沖大自治会をよみがえらせる闘いに入っていきます！

## 社会を変革する大学へ、声を上げよう！

仲地博・沖大学長は「子どもの貧困」問題を学術研究の柱に据えると内外に説明しています。しかし高い学費や奨学金、バイトに追われて授業に出ることもままならない沖大生の「貧困」の現実に向き合うどころか、押しつぶす役割を担っています。京都大学で「軍事研究反対」「対話が大事」と言いながら米軍マネーを受け取り、一方的に立て看板を規制する山極壽一総長や、リベラルを自認しながら法政大学で学生処分を乱発する田中優子総長とまったく同じです。結局、世の中を変えたいと思っている無数の人びとを囲い込んで、社会変革とは無縁の存在に陥れ、安倍の「戦争と貧困」の政治を左から支えているのです。

沖縄大学でこそ、黒田さん講演会での結論である団結して闘うこと、力関係をひっくり返すことが必要です。学生の可能性を奪う大学から、学生が主人公となって社会を変革する大学へ！ 5・14沖大キャンパス集会を全国学生の団結でキャンパスを塗り替える出発点としてやり抜きたいと思います！

すべての学生は、5月14日(月)12時、沖大キャンパスへ集まってください！

# 無実で獄中43年 星野文昭さん解放

## 全国集会

■日時: 2018  
**6月3日**(日)  
●12時開場 ●12時30分開会

■会場:  
**サンポートホール高松大ホール** 〒760-0019 高松市サンポート2-1  
TEL:087-825-5000

■講演:  
**平良 修氏**  
「沖縄と星野文昭」

■発言: ★家族の訴え  
★弁護団の報告 他

■終了後、高松市内をパレード



獄中で描いた星野文昭さんの絵 一辺野古の浜、沖縄の姉妹



●平良修氏プロフィール  
星野再審連絡会議の共同代表。2016年3月から、日本キリスト教団沖縄教区の議長を務めている。  
1966年、高等弁務官アンガールの就任式で「あなたが最後の弁務官となるよう祈ります」とスピーチし、「沖縄の良心」と言われた。星野さん解放にかけける思いを、「日本国家権力と沖縄県対決の陰謀は一層濃くなるだろう。だからこそ、文昭さんは獄中ではなく、大空の下で、私たちと共に、心の底から、沖縄解放を叫ばなければならないのだ」と語っている。  
今回、「沖縄と星野文昭」というテーマで講演していただくことになった。



●出結した野崎子さん  
山形県米沢市生まれ。裁判の傍聴を通して星野文昭さんを知り、彼の人間性と生き方に感動して、1986年9月17日に獄中結婚した。毎月、文昭さんとらわっている徳島刑務所に通い、重会を続けている。全国で開かれる結核展は、文昭さんが獄中で描く絵と野崎子さんの詩で構成され、年間2万人が来場している。また、Fumi Akikoカレンダーが毎年作成され、多くの人の感動を呼んでいる。  
家族であると同時に、星野再審連絡会議の共同代表として文昭さんと共に闘い、文昭さんを取り戻すための運動の先頭に立っている。



●JR高松駅から徒歩3分  
●ことども高松港駅から徒歩5分  
●高松港から徒歩2分

主催/星野さんをとり戻そう! 全国再審連絡会議 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル4階  
Tel.03-3591-8224 Fax.03-3591-8226 [E-mail] gen@star.nifty.jp [URL] http://hoshino.u.cnet-ta.ne.jp/  
共催/徳島星野文昭さんを救う会 香川・星野さんを取り戻す会 えびめ星野文昭さんを取り戻す会 高知・星野さんを救う会